

# Dr.オリゼパディート粒剤

■種類名：シアントラニリプロール・プロベナゾール粒剤  
 ■有効成分：シアントラニリプロール-----0.75%  
 プロベナゾール-----24.0%

■登録番号：第23847号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)  
 ■登録初年：2016.11.02  
 ■性状：類白色細粒  
 ■有効年限：3年  
 ■包装：1kg×12袋、3kg×8袋  
 10kg×1袋、40kg(2年)\*  
 \*担い手直送規格一覧(P331)をご覧ください

## 【特長】

- 抵抗性誘導型殺菌剤Dr.オリゼと新規殺虫剤パディートを組み合わせた混合剤。
- 育苗箱処理でもち病からイネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イナゴ類まで長期間にわたり同時防除ができる。

## 【適用内容】(2018年8月8日現在)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	1回	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30x60x3cm、 使用土壌 約5 $\frac{1}{2}$ 畝) 1箱当り50g	緑化期 ~移植当日		育苗箱の苗の上から均一に散布する。		
	ニカメイチュウ フタオビコヤガ ヒメトビウンカ		移植3日前 ~移植当日				
	イナゴ類		移植当日				

## 【効果・葉害等の注意】

- 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ◆ 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としたのち、十分灌水すること。
  - ◆ 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して葉害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
  - ◆ 軟弱徒長苗、むれ苗などでは葉害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
  - ◆ 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は葉害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - ◆ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - ◆ 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
  - ◆ 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - ◆ 移植後は湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- ヒメトビウンカに対しては残効性に注意すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

## 【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないように注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。  
作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするるとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- ❖ 夏期高温時の使用をさけること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。  
水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。  
使用後は水管理に注意すること。  
器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。